

家庭ごみで固形燃料

三東工業社など新会社

滋賀県を拠点に建設・土木事業を手がける三東工業社は、家庭から出る廃棄物のリサイクル事業に進出する。燃えるゴミを微生物を使って固形燃料に加工し、主に石炭の代替品として製紙会社などに売り込む。ゴミ焼却を減らして二酸化炭素

（CO₂）の排出を抑えたい自治体と連携する計画だ。リサイクル関連のプラント設計でノウハウのある新和産業（岐阜市）と共同出資で新会社を設立した。

4月に設けた新会社の名称は「アンビエント」（資本金1000万円）で、登記上の本社は三東工業社と同じ滋賀県栗東市に置いた。持ち株比率は三東工業社が51%、新和産業は49%。コストや価格を含めた生産計画は策定中とみられる。

三東工業社の執行役員でアンビエントの取締役に兼ねる石川真氏によると、好気性発酵乾燥方式という技術を採用する。主な材料は家庭が廃棄する生ゴミ、紙、プラスチック。温度も管理して自然由来の微生物の活動を助け、ほぼ2週間で不要な有機物を分解する。残った紙とプラスチックの成分を手ごろな大きさの固形燃料に仕上げる。